

多様性と 激動の時代の メディア

人々の価値観やメディア環境が多様化し、
世界情勢も激動の真っただ中にあるいま、
メディアには何が求められているのでしょうか。
平和や民主主義を守るために、
メディアが果たすべき役割とは？
多メディア時代に生まれ育った若者たちの
意識からみえるメディアの未来像とは？
“テレビ70年”の節目に、メディアの
現在と未来について徹底的に考えます！

参加・視聴
無料

NHK BUNKEN 文研フォーラム2023

WEB
ライブ配信

3/1(水) 2(木) 3(金)

視聴
お申し込みは
こちら

視聴申し込みは、文研のホームページで
受け付けます(2月23日締め切り)。
最新情報を随時掲載します。

<https://www.nhk.or.jp/bunken/forum>



3/1(水) 開会 10:30~ ご挨拶:千葉 聡史(文研・所長)
総合司会:兼清 麻美(文研・メディア研究部 研究プロデューサー)

A 研究発表&シンポジウム 10:40~12:10 コロナ禍のネット時代を生きる中高生 ~第6回「中学生・高校生の生活と意識調査」~

コロナ禍のストレスはあっても、SNSを通じて人間関係を拡大させ、明るい未来を思い描く中高生たち。
10年ぶりの全国世論調査からみえるのは、勉強に前向きでジェンダー問題への意識が高い一方、競争意識は薄く、
「社会」よりも「自分」を大切にする姿。いまどきの子どもたちの生活や価値観について、専門家と考えます。

パネリスト:工藤 勇一(横浜創英中学・高等学校 校長) / 水無田 気流(國學院大学 経済学部 教授) など
報告:村田 ひろ子(文研・世論調査部 主任研究員) 進行:中山 準之助(文研・世論調査部 研究員)

B シンポジウム 14:00~15:30 Z世代と「テレビ」~大学生と語る“withコロナ”時代のメディア~

デジタルネイティブの先駆けとして注目を集めるZ世代。中でも大学生活をコロナ禍と共に過ごした学生たちは、いま何を思い、何を「テレビ」に
求めるのか。調査データと専門家の解説から「テレビ」とのリアルな距離感に迫ります。

ゲスト:渡邊 久哲(上智大学 文学部新聞学科 教授) / 小々馬 敦(産業能率大学 経営学部 教授) / Z世代の大学生のみなさん
報告:舟越 雅(文研・世論調査部 研究員) 進行:保高 隆之(文研・世論調査部 研究員)

3/2 (木)

C

研究発表&シンポジウム 10:30~12:00

ウクライナ侵攻に見るメディアと戦争

長期化するロシアによるウクライナへの軍事侵攻を、日本のメディアはどう伝えてきたのか。過去の戦争報道と比べどのような違いがあるのか。また、SNSの情報発信やデータジャーナリズムの取り組みにはどのようなものがあるのか。さまざまな角度から検証し、議論を深めます。

パネリスト: 武田 徹 (専修大学 文学部 教授/評論家)/新田 義貴 (ユーラシアビジョン代表)/柳澤 秀夫 (ジャーナリスト)

報告: 上杉 慎一 (文研・メディア研究部 上級研究員)

D

研究発表&シンポジウム 14:30~16:00

放送アーカイブ「公共利用」~地域文化施設アンケートからみえる放送局の新たな使命~

北陸3県の博物館、図書館などを対象としたアンケート調査で、放送番組アーカイブ利用への高いニーズと、それが困難である現状が示されました。調査結果を報告し、地域文化振興など公益目的でのアーカイブ利用の意義と課題、そして、放送局の今後の役割について討論します。

パネリスト: 福井 健策 (弁護士)/岡室 美奈子 (早稲田大学 坪内博士記念演劇博物館 館長)/坂下 雅子 (石川県小松市立博物館 参事)

報告・進行: 大高 崇 (文研・メディア研究部 主任研究員)

3/3 (金)

E

研究発表 10:30~11:30

文理融合で拓く研究の可能性

テレビの放送開始から今年で70年。NHKは衛星放送やハイビジョン、8Kといった様々なサービスを研究・開発し、メディアの創造をリードしてきました。一方で、時代の変化とともに社会には新しい課題も生まれています。文研と放送技術研究所では、そうした社会課題に対応するために文理融合の視点で検討を重ねています。共同研究の成果について報告します。

報告: 宮崎 勝 (NHK放送技術研究所 スマートプロダクション研究部 研究プロデューサー)/

田高 礼子 (NHK放送技術研究所 スマートプロダクション研究部 副部長)/

古宮 弘智 (NHK放送技術研究所 スマートプロダクション研究部 研究員)/柳 憲一郎 (文研・計画管理部 主任研究員)

F

研究発表&シンポジウム 13:30~14:30

「市民力」を活かすジャーナリズムの挑戦~海外の事例から~

社会の分断、民主主義の後退、ニュース砂漠の拡大、情報の洪水。深まる危機に立ち向かうため、ジャーナリズムの役割を見直し、人々の「市民力」を活かすことに力を入れる海外の試みについて報告します。

ゲスト: 決まりしだい、ホームページでお伝えします。

報告・進行: 青木 紀美子 (文研・メディア研究部 研究主幹)

G

シンポジウム 15:30~17:30

デジタル情報空間とメディア ~“信頼”のフレームワークをどう構築するか~

ネット上の課題が増大し、“インフォメーションヘルス”の確保や健全な言論空間の再構築が求められています。

こうした中、放送、新聞、プラットフォーム事業者はどんな役割を果たすべきか。競争・共創の姿とは? 業界横断的議論から考えます。

ゲスト・パネリスト: 決まりしだい、ホームページでお伝えします。

報告・進行: 村上圭子 (文研・メディア研究部 研究主幹)